



▲試運転に入った仮設焼却炉

飯館村小宮地区対策地域内 廃棄物処理施設 火入れ式



▲火入れ式で発火ボタンを押す村長ら関係者

村復興へ大きな前進

環境省は8月6日、村小宮地区で家庭用ごみなどを燃やす仮設焼却炉施設の火入れ式を行いました。式には関係者ら約60人が出席し、菅野村長が「村、福島復興の大きな動きとなることを願います」と期待を述べました。また、井上信治環境副大臣は「避難市町村初の仮設焼却炉となります。安全面に最大限配慮して良いモデルケースにしたい」とあいさつを述べました。

焼却炉は試運転などを経て、9月から本格運転を開始する予定です。村で発生した畳や布団、衣類などの片付けごみを1日に約5トン、2年間で計約1900トン焼却処理し、減容化する予定です。安全面に配慮し焼却は粉じんが飛散しないように処理をします。焼却灰はセメントと混ぜて固め、燃え残った不燃物は敷地内に仮置きをし、中間貯蔵施設や指定廃棄物の最終処分場に搬入します。



▲ご家族の皆さんと一緒に

永井さん100歳賀寿

8月12日、いいたてホームで永井ミツ子さん(伊丹沢)の100歳賀寿が行われました。県から知事賀寿と木杯が贈呈された他、村や村社会福祉協議会などから祝い金や記念品が手渡されました。

永井さんは、夫の故・敬治郎さんも3年前に100歳となり夫婦ともに賀寿を受けました。孫の丹野ルリ子さんは「介護のおかげで元気に過ごせています」と謝辞を述べました。

91歳以上長寿番付

年齢基準日 平成26年4月1日 ※名簿は行政区順となっております。

男		年齢	女			
氏名	行政区		氏名	行政区	氏名	行政区
高野 久次郎	関沢	101歳	松田 マチノ	深谷		
木幡 常治	小宮	100歳	細川 マツ	上飯樋		
		99歳	永井 ミツ子	伊丹沢	古川 ハナ	小宮
		98歳	古川 トミ子	伊丹沢	北山 ヨシイ	飯樋町
		97歳	木幡 四	伊丹沢	鳴原 フカノ	長泥
齋藤 金男	八木沢・芦原	96歳	菅野 菊栄	伊丹沢	菅野 ツルノ	比曾
			高野 トシイ	大倉	高橋 スギノ	関根・松塚
			大東 春子	宮内	井上 ブン	前田
齋藤 春夫	大久保・外内	95歳	佐藤 菊美	伊丹沢	小泉 チヨ	伊丹沢
森 正夫	上飯樋		藤田 キヨノ	伊丹沢	大久保 コト	小宮
今野 忠雄	関沢	94歳	菊池 二三子	草野	山下 ハルヨ	大倉
佐藤 宗雄	小宮		高橋 嘉子	伊丹沢	長澤 マスイ	大倉
庄司 徳松	大倉		吉田 清	伊丹沢	大久保 トシイ	宮内
永澤 清	飯樋町		早川 キチノ	伊丹沢	菅野 カツイ	比曾
			山田 ヨシエ	伊丹沢	市澤 ウメヨ	前田
松下 定雄	宮内	93歳	坂本 チヨ	草野	西川 ケサヨ	宮内
長正 與享	大久保・外内		渡邊 コウ	伊丹沢	荒 二三子	飯樋町
			山田 マキヨ	伊丹沢	愛澤 ハツノ	大久保・外内
			加藤 シヲ	伊丹沢	赤石澤 ツメ子	大久保・外内
			高倉 ナミ子	関沢	阿部 キノ	大久保・外内
			佐藤 ナミヨ	大倉		
八巻 誠一郎	草野	92歳	竹田 アキヨ	伊丹沢	田村 マツヨ	比曾
伊藤 保	伊丹沢		花井 トヨ	伊丹沢	高橋 光子	長泥
菅野 利光	小宮		佐々木 ハルノ	伊丹沢	志賀 ヨシ子	蔵平
鈴木 信七	佐須		佐藤 ユリ	佐須	山田 カメヨ	関根・松塚
赤石澤 又彦	飯樋町		阿部 アキノ	佐須	馬場 保子	白石
赤石澤 一喜	大久保・外内		阿部 コナミ	宮内	嘉藤 トキ	白石
			赤石澤 ミドリ	大久保・外内	佐藤 富子	前田
			藤井 シギ	上飯樋		
庄司 次男	関沢	91歳	松下 ヨシノ	草野	石川 孔子	比曾
佐藤 嘉兵衛	宮内		今野 フクヨ	草野	菅野 マキ子	比曾
今野 義實	前田・八和木		庄司 シゲ子	関沢	小野 ツルヨ	蔵平
佐藤 一二	前田		庄司 千恵	大倉	高橋 みつ	前田
			坂井 チヨ子	飯樋町	佐藤 ヨネ	前田
			大澤 フチノ	上飯樋	佐藤 フチエ	二枚橋・須萱
			大澤 フジヨ	上飯樋		

9月14日(日)は

敬老会 ですよ



村では、飯館村の発展に貢献されたお年寄りの皆さんをお招きし、長寿を祝う敬老会を9月14日に飯館中学校仮設体育館(福島市飯野町)で行います。

対象者は、4月1日現在75歳以上の方で1146人です。(8月15日現在)

当日は、各地区から会場までの送迎バスを運行します。(バス運行表は、敬老会招待状と一緒に送付します)

敬老会に関するお問い合わせは、健康福祉課福祉係(飯野出張所)02415621425まで。

皆さんのお越しをお待ちしています。

(平成26年8月18日現在)



▲ため池の利用や管理方法等も検討されます

村内ため池モデル調査を実施

国・県は、ため池等の放射性物質対策についての技術マニュアルを作成するため、村のため池でモデル的に調査を行います。

調査は、規模等、各種条件の異なるため池15か所で、底床の汚染分布や底土を分離した場合の効果を明らかにすること等を目的としています。

村は、今回の調査結果を受けて今後の汚染拡散防止対策に取り組んでいく予定です。

モデル調査の結果等については、別途お知らせします。



▲ハウス内で収穫作業が行われています

村内産いちご 初出荷

7月31日、(有)いいたていちごランド(佐藤博代表)が避難指示後4年ぶりにいちごを出荷しました。

震災後、村内で栽培された食用農産物が市場に流通するのは初めてのことで、いちごランドは、通い農業が認められている二枚橋地区で、ハウス被覆ビニールや培養土を全量交換し、地面に接しない養液栽培をしています。

佐藤さんは4回に渡る食品放射能検査全てで合格したいちごの前に「全村避難中の再開に葛藤はあったが、村の農業再生の一步になれば」と村農業の復興にかける想いを語っていました。